

と置きけらる本ト秀吉遠船出陣こそ變便を是と非
と論せど此石と況れ玉へしと頻小動か無さる也。然うば早く準
備せよと作内元助福富宋左衛門と奉行行さり。筑城の結構と余
属ら主と同月廿七日りて。琳谷と行毛と初日小涼ぞ急速玉ふ今
迄修理は事少ひて。防禦の準備簡要うりと。柴田勝家本ト秀
吉佐久間信盛丹羽長秀峰登頼隆遠立將軍のく自勢の移る所にて。
虎渕前山と小谷の間を風も密まると断截て浅井朝倉の壓護とせ
らる。も後陣小ハ池田信輝内藤猪外様内猿不破行内も附、小
隊伍と達すと山奉山の壓防として丸毛谷庫領市村九郎左衛門水野ト
野ち中川八郎右衛門と當向らる小谷隊少浦井長政鐵田岩脩の
隊伍と達て虎渕前山小城と並び。厥所作と視るよりも斯ハ一大事の

緒戦を収め生波山小城を築き主と。自方死難危々一合戦にて始けん。
詔文よりと補ひまじ義系出馬せざる小國て。名士微々たる者也。越
後へ使者と遣らせく。出島の催促頻々。義系さこそと察一々も。この
刹ハ延引さうざし早速出馬。救ふべーとて二萬余騎と同率今一萬
石と竪勢せらす。當天の柳ヶ瀬の名陣也。とくどうぞ。もとも。かやま
の林麻小結陣を。信長に見と御覽ゆ。禧わヒ勝利と袖麻小弓。こゝ小本
陣と固めらま。朝倉小向く對陣。あらび終勢小指揮と傳へ減の馬と提
さを玉ふれ。朝倉勢も劣らじと丙戌の声と食せらう。是役。こゝ小
調し。豈れ安途なりとひとども。義系出馬四日未だ虎御前山は城修
も。えもくも。理ハ容易登所。さゑほじり。と叱罵。おづぎ然が一軍」と助ぐ。と
射倉勝と謀ト合せ。豈改も。千金弱を引取。小岩城を擊出。